



：今月のことば

行き詰まりは、展開の一步である。

吉川英治 (作家)

TOPICS

▶ テレマティクス保険は普及するか

車載の端末で運転情報を収集し、特性や走行距離などを保険料に反映する新しいタイプの任意保険が「テレマティクス保険」です。

国内損保各社は今年から様々な形態のテレマティクス保険を発売していますが、日本でも普及するのでしょうか。

▶ 走行距離や運転特性を保険料に反映

テレマティクス保険には、大きく分けて「走行距離連動型」と「運転行動連動型」があります。

走行距離に応じて保険料が変わる商品はこれまでもありましたが、テレマティクス保険では実走行距離に合わせて1km単位で保険料が変動します。

▶ 事故防止効果に期待

最も期待される効果は意識向上による事故率の低下ですが、すでに普及が進んでいる英国では若年層ドライバーの事故率が75%も下がったというデータもあるようです。

▶ 導入コストや未加入対策に課題も


欧米に比べ保険料が安価な日本において、専用端末代や通信費などをペイするのかといった懸念や、危険な運転を行う運転者が任意保険に加入しなくなるおそれも指摘されています。

▶ プライバシー面はちょっと不安

最近、事務所で導入したカーシェアリングにも、安全運転をすることで優遇される仕組みがあります。

急ブレーキなどの際に警告が鳴るため、緊張感が事故防止につながる実感がある一方、位置情報も含め筒抜けであることを考えると、すこし居心地の悪さも感じます。

(山本)



「距離に連動して？」っていうと「連動して」っていう。

「行動に応じて？」っていうと「応じて」っていう。

「事故率低下するの？」っていうと「英国では若年層のドライバーの事故率が75%下がったというデータがある」っていう。

そうして、あとでこわくなって「情報すこし洩れない？」っていうと「ダダ洩れ」っていう。

「ここまででしょうか、いいえ、テレマティクス保険。」

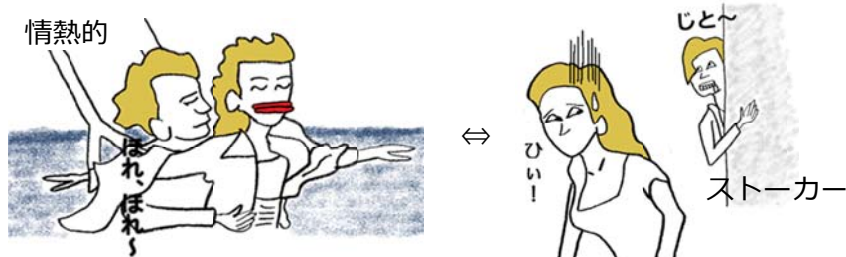
本業の行き詰まりをどう打開するか？の巻

ものごとの捉え方は、ひとつではありません。たとえば、`おおらか、`というのは、捉え方によっては、`無神経、`ともいえるわけでした。その他にも、

まじめ ⇔ 堅物

少年らしい心を忘れない ⇔ 子供じみた

自分の考えを持っている ⇔ 頑固



帝国データバンクの調査によると、創業時といまを比較して`本業、`が変わったという会社の割合は、47.7%。

本業に行き詰まりを感じる。こんなとき、他の事業は魅力的に映ります。行き詰まりは展開の一步である、だれかがこんなこといっていたな。よし、うちも他の事業への展開を図るか。多角化経営だ。こんな具合で、他の事業に乗り出して、結果として創業時と本業が変わった会社がほぼ半分。

本業の売上がいまひとつ伸び悩んでいる。そんなとき、そこにとどまるという選択肢もあります。こんなときだからこそ、原点回帰だ。本業を見つめ直して、より質のよいものにしようじゃないか。こんな具合で、もともとの本業がいまの本業のままの会社もまた半数。

多角化経営といっても、あれもこれもというのは困ります。原点回帰といっても、世の中の変化をまったく無視するのはちょっと…。でも、ふたつのことは同時に選べない。

あなたならどうしますか？

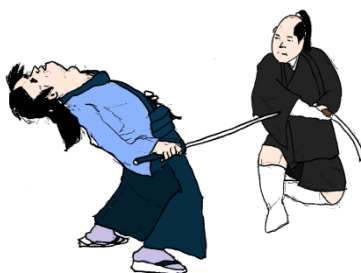
多角化経営 ⇔ いったい何の会社？

原点回帰 ⇔ 変わろうとしない

(駿馬)

◎編集後記

太秦ライムライト



『太秦(うずまさ)ライムライト』という映画を観ました。太秦映画村が京都の兄の家から近く、姪っ子と数回行ったことがあるので懐かしくて、なんとなく借りたのです。普段スポットが当たらない時代劇の切れ役、大部屋俳優に焦点を当てた映画で、この作品で初主演となった福本清三さんも、56年間ずっと大部屋俳優を務めてきた方だそうです。淡々と文句も言わず一生懸命に自分の仕事を努めようとする姿がとても印象的で、格好いい映画でした。(和崎)

●今月のすうじ

◆47.7%。創業時と今を比べて、本業が変わったという会社の割合。なんと半分の会社が、創業のときの本業が今の本業ではないんですね。